観光問題

問 今冬のスキー客の入り込みは

答 前年と比べて微増です

池田和良議員

【観光振興】

問　外国人の入り込み状況については、長期滞在が多いと聞いていますが、国別では。

村長　韓国が42・6％と一番多く、オーストラリア、香港、アメリカとなっていますが、ロシアからの入り込みの増加が、最近顕著です。

問　長期に滞在するお客さんの身になってリフト券の共通化は必要と思いますが。

村長　外国人客専用リフト券「ハクバオールマウンテン」として、栂池スキー場も加え実現させており、より安価に利用いただいています。どのスキー場も利用できるリフト券については、索道協議会と協議し実現に向けて努力していきます。

賑うスキー場

問　国内初の障害者用バイアスロン施設をスノーハープで造る計画は、どうなっていますか。

村長　日本には、バイアスロン競技の屋外射撃施設がなく、選手育成のため国内に施設を設置し、十分に練習ができる環境をつくりたいとの思いから検討し、白馬を競技場にしたいという話がありました。保安基準の許可が難しいため、設置場所の可否を含めて検討を行っているところです。

問　グリーンシーズンに向けての取り組み状況は。

村長　キャンペーン関係では５、６月がメインになりますが各地での商談会、メディアへのＰＲを行います。イベントについては、ほぼ昨年と同様です。春のざぜん草祭り、福寿草祭りを春三昧と銘打って宣伝をしています。

【食の安全】

問　各地で中国の冷凍食品が問題になっています。営業施設を持つ村として食材の取り扱い状況は。

村長　食品衛生の問題については、保健所、食品衛生協会と協力して講習会を実施しており、食の安全を図っています。

問　学校における食材の安全性と使用状況は。

教育長　給食での冷凍食品の使用については、南小で一割弱、共同調理場ではほとんど使用していません。必要最小限での使用とし、村では全て国内産です。

問　地場産食材の取り扱いと食育については。

教育長　野菜は年間１００ｔ、全部で33種類を使用しています。米飯給食は地元産の「あきたこまち」を使用し、週３・５日の割合で提供しています。食農教育として野菜づくりや米づくり、田植えや稲刈りなどの、体験学習も実施しており生産者との交流も行っています。

【ごみ問題】

問　ボーリング調査が終了し、その結果に対する村民への説明方法は。

村長　住民説明会は日程の調整ができ次第行います。